

2022年

8月号

NO-91



# 地域リハビリテーション支援センターだより

(神奈川県リハビリテーション支援センター)



令和4年度

## 地域リハビリテーション連携推進事業について

今年度は、**鎌倉市** と **秦野市** で開催いたします。

神奈川県地域リハビリテーション連携構築推進研修 鎌倉市編

鎌倉市

### 地域ケア会議におけるリハビリテーション職の役割と可能性について

開催時期：2022年11月・12月（2回開催） 平日18時～20時（予定）

会場：鎌倉市内 募集人数：30～50名 開催形式：原則対面研修

プログラム

- 11月 ⇒ 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の役割と可能性（各20分）  
神奈川県リハビリテーション支援センターの役割と可能性（20分）
- 12月 ⇒ 模擬ケア会議、発表/ディスカッション、総括

**目的：今一度、リハビリテーション職の役割と可能性について知ってもらう。**

**多職種を含め、お互いにそれぞれの役割を共有する。**

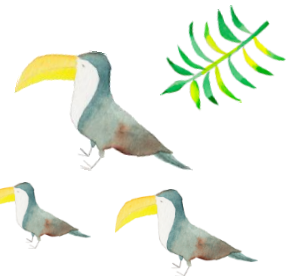
**開催趣旨：** 地域における多職種連携は、地域包括ケアとして介護保険におけるサービス担当者会議や地域ケア会議などで行われていますが、一般社団法人兵庫県理学療法士会が令和2年に実施した「介護支援専門から見た理学療法士に関するアンケート結果」では、「連携をとる上で、PTに求める項目」において「他職種に対する理解」と回答したのは、160回答中103、（64.4%）、「リハビリテーションに関する知識」回答98、（61.3%）、「コミュニケーションスキル」回答82、（51.3%）、「介護支援専門員の仕事の理解」回答79（49.4%）と報告されています。更に、令和2年に株式会社日本総研が報告した「地域ケア会議に関する総合的なあり方検討のための調査研究事業 報告書」において「関係者等のネットワーク強化への取り組み」の項目における「参加者それぞれの専門性や期待されている役割などが参加者間で予め共有している」の設問で「している」の回答は、31.9%（n=1230全国市町村対象）というデータが示されていました。

単に、職種の業務内容を説明し合うのではなく、ケースを通して体感してもらうため模擬ケア会議を行います。併せてリハビリテーション職である理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の地域ケア会議における役割と可能性についての講義を計画しています。関係職種が他職種の役割や、他職種から何を求められているかを自覚・共有することが、地域包括ケア推進の推進力になると考えます。

詳細が決まり次第、ホームページ等でお知らせいたします。  
多くの方が興味を持っていただきご参加いただけることを期待いたします。  
秦野市編の企画詳細は、この便りの10月号でお知らせいたします。

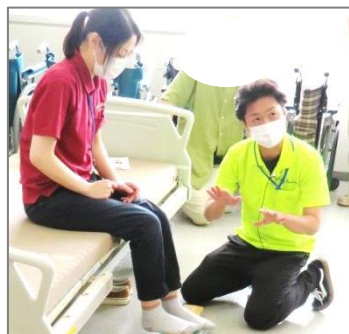
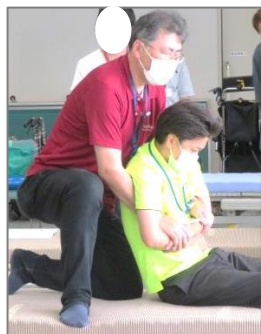


# リハビリテーション専門研修



6・21  
(火)

## からだにやさしい介助入門 移乗編 (ウイング横浜)



リハ専門相談でもお問い合わせの多い『移乗介助』について、身体の使い方や立ち上がりの介助方法、福祉用具(ボードやリフター)の使い方など、実技を通して学びました。

### 受講生の声

身体の使い方・考え次第で腰痛予防ができ、負担の少ない介助の方が理解できました！

### 講師

地域リハビリテーション支援センター  
神奈川リハビリテーション病院  
地域リハビリテーション支援センター  
神奈川リハビリテーション病院

理学療法士 小泉 千秋  
理学療法士 高 啓介  
作業療法士 清水 里美  
理学療法士 笹島 幸子

## コミュニケーション支援の実際 (神奈川工科大学 IT エクステンションセンター)



7・9  
(土)

『コミュニケーション』という基本的な考え方から、文字盤の実技体験・IT 機器支援の活用法など、すぐに現場で活用できるお話しをしていただきました！

### 受講生の声

やれることは沢山ある！  
利用者さんと一緒に探っていきたいです！

### 講師

かながわ難病等リハビリテーション支援連絡会  
医療法人社団芳英会 吉野内科・神経内科医院  
神奈川リハビリテーション病院  
神奈川リハビリテーション病院

認定作業療法士 中川 翔次  
言語聴覚士 山本 直史  
リハエンジニア 柏原 康徳  
作業療法士 廣田 祐樹



7・20  
(水)

## 排泄ケアの知識と実践 (神奈川県総合リハビリテーションセンター)



医学的な基礎知識、排尿アセスメントや管理、排尿の環境支援の基本的な考え方について学びました！

### 受講生の声

知らない医療の情報を聞くことができ「排尿障がい」と一言でまとめてはいけなそう思いました。

### 講師

神奈川リハビリテーション病院  
神奈川リハビリテーション病院  
七沢自立支援ホーム

泌尿器科 医師 田中 克幸  
皮膚排泄ケア認定看護師 矢後 佳子  
作業療法士 高木 満



# 9・10月の専門研修（予定）



視覚障がいのある方への支援	9月 7日（水）	神奈川県総合リハビリテーションセンター
脳血管障がいの評価と治療	<del>9月 17日（土）</del>	<b>11月23日（祝・水）に変更</b> になりました。 ウィリング横浜
褥瘡予防セミナー	10月 19日（水）	神奈川県総合リハビリテーションセンター
脳卒中の方の就労支援	10月 29日（土）	神奈川県総合リハビリテーションセンター

\*感染状況により、研修形式等の変更がある場合があります。適宜ホームページをご確認ください。

## 最近のリハ専門相談 ～食事姿勢 について～

リハ専門相談では、施設の介護者から食事姿勢についての関する相談が増えています。  
内容としては「**姿勢が傾いている（徐々に傾いてしまう）**」「**食べこぼしが多い**」が多いです。

施設の実性上、いすやテーブルを複数人が共用して食べる環境であることが多く、個別対応がむずかしい場合もあります。ただ、その中でもできる範囲で姿勢が整うような方法(工夫)を提案することを心がけています。



食事姿勢で大事なことは、**頭頸部を嚥下しやすい状況に整えること**です。

例えば、左の写真のようにおしりがすっこけた状態で背中が丸まっていると、食べ物を口に入れる時にあごを前に突き出すような姿勢になりやすく、飲み込みに悪影響を及ぼします。

また、姿勢が横に傾くと、無意識に倒れないように身体を支えようとする身体反応が生じます。頸部周囲の筋に過剰に力が入ると飲み込む動きがしにくくなります。

### ◎体験してみよう！

写真と同じ姿勢で唾液を飲み込んでみましょう！どんな感じがしますか？

ただ、食事姿勢(食べ方)には個人差があり、本人が苦しいと感じておらず本人にとって『楽』に飲み込めていれば何ら問題はありませぬ。嚥下機能が低下している場合には、姿勢を調整することで嚥下機能が改善することがあるので、そういった場合にはシーティングなどの調整が必要になります。

### < 車いす調整例 >



調整前



調整後

対応方法として、なるべく座面のまん中に深めに座ります。そして、大腿部はクッションから浮かないように、足底が床面に接地するように、クッションや足プレートの高さを調整します。上半身が前に傾いている場合は、テーブルの上に上肢をのせると傾きが軽減する場合があります。

食事の対応は個別性があるため、個々の身体状況に合わせた対応が必要です。当支援センターでは、今後も地域の施設のスタッフの方々と協力しながら、対応していきたいと考えています。

(小泉 千秋)



	神経・筋疾患	脊髄障害	脳血管障害	骨関節疾患	後天性脳損傷 (除くCVA)	脳性麻痺	知的障害	視覚障害	その他(切断・ 加齢等)	不明	合計
県央	2	2	6(1)	2(2)			4(1)	3(1)	3(2)	1	23(7)
湘南東部		1			5	1	3				10
湘南西部	1	6(1)	4(1)			6(2)	2		1		20(4)
県西	1(1)	2	1								4(1)
横須賀・三浦									1		1
合計	4(1)	11(1)	11(2)	2(2)	5	7(2)	9(1)	3(1)	5(2)	1	58(12)

	障害者更生 相談所	居宅介護支援 事業所	市町村	地域包括 支援事業所	本人・家族	障害者 相談支援 事業所	障害者施設	医療機関	訪問看護 事業所	保健福祉 事務所	高齢者施設	訪問介護 事業所	教育機関	その他	合計
県央		2	1		3	2	5(2)				8(5)	1	1		23(7)
湘南東部						1	4	1	3				1		10
湘南西部		3(1)			3		9(3)		3				1	1	20(4)
県西			1					1	2(1)						4(1)
横須賀・三浦				1											1
合計		5(1)	2	1	6	3	18(5)	2	8(1)		8(5)	1	3	1	58(12)

( ) 訪問件数

## 高次脳機能障害全国連絡協議会

## 高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議

令和4年6月29日(水)AM 高次脳機能障害全国連絡協議会、  
PM 高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議がオンラインで開催されました。

高次脳機能障害全国連絡協議会では、全国10ブロックからの検討課題についての報告、支援普及事業の運営方針、質疑応答がありました。支援普及事業の運営方針での国立リハセンターからの情報提供の中で、高次脳機能障害による社会的行動障害の支援困難度評価基準の作成を目的とした、厚生労働科学研究「障害福祉サービス等における高次脳機能障害者の支援困難度の評価指標について」が行われているとのことでした。現在、国立リハセンターでは「高次脳機能障害の障害特性に応じた支援者育成研修」の資料やプログラム作成が行われており、将来的に都道府県単位で支援者育成研修が開催できることを目指しています。一定の社会的行動障害がある高次脳機能障害者を支援した場合、加算がつくような制度変更につながればと思っています。質疑応答の中で、ここ1-2年自賠責保険の後遺障害認定基準が厳しくなっているように思っているとの情報提供がありましたので今後注視していきたいと考えます。

高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議では、事業紹介として障害者職業総合センターによる「国立職業リハビリテーションセンターにおける高次脳機能障害者への支援」、実践報告として千葉リハビリテーションセンターより「千葉リハ就労支援～高次脳機能障害者就労移行支援プロジェクトを中心に」、グループ討議では「地域における高次脳機能障害者への就労支援体制」について意見交換がされました。神奈川県での高次脳機能障害に関する就労支援は、職業安定所、障害者職業センター、就業・生活支援センター、就労移行支援事業所等が連携する中で実践されていますが、より充実した支援が行われるように関わりを継続できるように取り組みたいと思いました。

(瀧澤 学)

### 編集後記

今年も暑い日々が続いています。温暖化の影響は生態系にも及んでいます。身近な海でも、マグロやカンパチのような南方系の魚が増えています。その一方で、消えつつある魚もいます。人間は文明の機器を通じて温暖化に対応していますが、どこまでできるのでしょうか？(小泉)

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢516  
神奈川県総合リハビリテーション事業団  
地域リハビリテーション支援センター  
☎ 046-249-2602  
FAX 046-249-2601